

2022年3月13日日本学術会議公開シンポジウム
「女性の政治参画をどう進めるか？」

閉会挨拶

大沢真理
日本学術会議連携会員
社会学委員会ジェンダー研究分科会委員
東京大学名誉教授

シンポから学んだこと

- 立候補 자체が難しい（自治体合併の影響も？）。
- とくに小選挙区←イギリス労働党の工夫は示唆に富む。
選挙区党员の候補者選定への関与
- 当選しても待っているハラスメント
- 議員には出産・授乳などが想定されていない
- 議員の活動分野の性別分業
- インセンティブか減額か
- 権威主義／民主主義とクオータ制

改めて、政治家の役割とは何か、と感じる

政策形成・推進（閣法なのか議員立法か）、利益誘導
(地元や業界)、政局

国会と地方議会では異なる？

女性政治家が増えて何が変わるか

林局長ご挨拶での提起、主として外国での研究によると

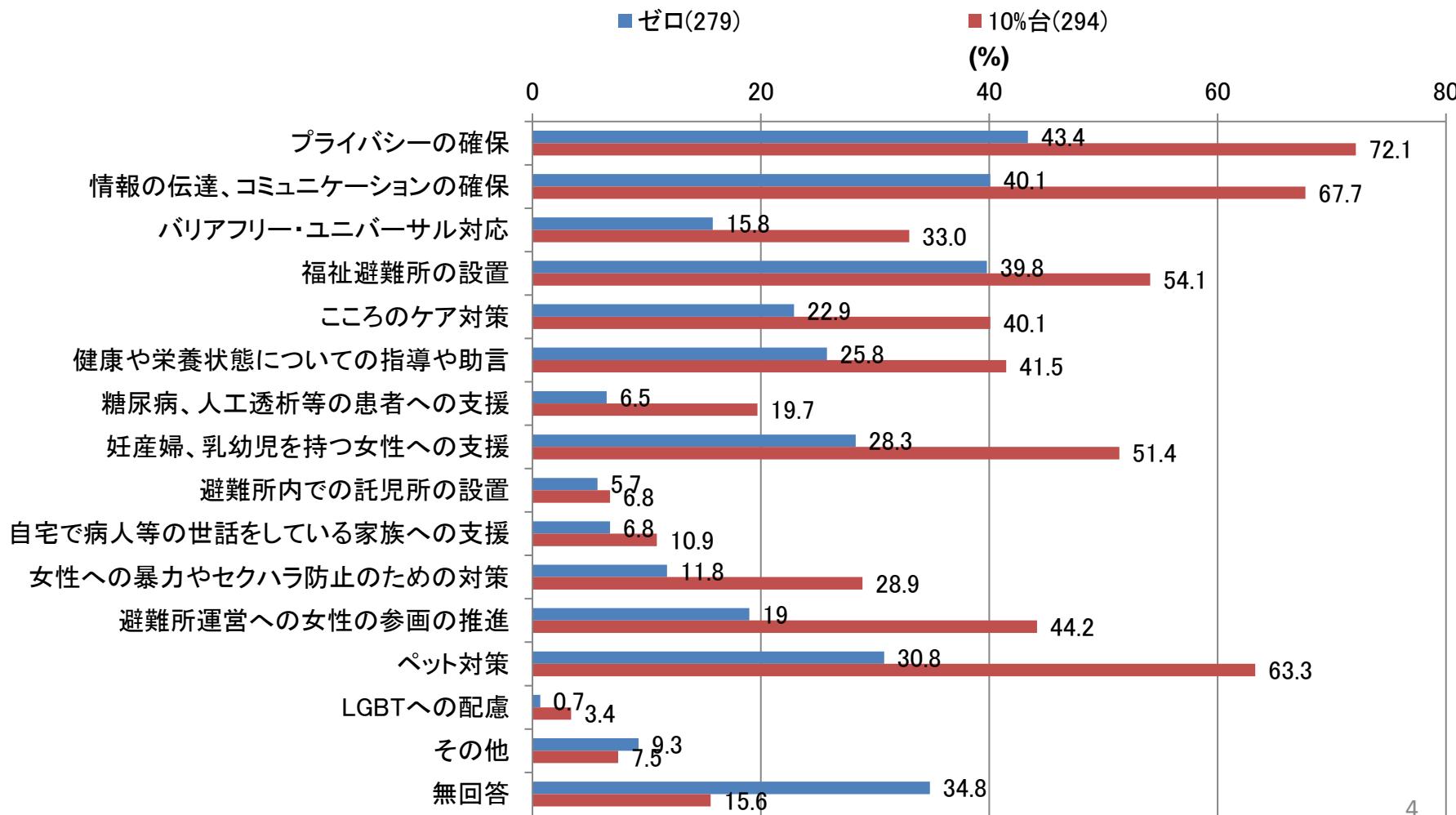
- Kittlison, Miki (2008) : 女性議員の比率は出産休暇、育児休暇の採用と内容充実と相関(1970-2000年の日本を含むOECD19か国の分析)
- Bonoli, Giuliano and Frank Reber (2010): 保育サービスのカバレッジとプラスに相関するのは、公的支出と賃金分散。公的支出とプラスに相関するのは女性議員比率
- Ennser-Jedenastik, Laurenz (2017) : 女性有権者と女性議員は現金給付よりも現物給付(保育サービス)を選好する
- 日本の地方議員の女性比率に関しては、事情が異なるかもしれない
- Abrus et al. (2021) : 女性が政府首脳の国では、普遍的保健医療のカバレッジが高く、看護師・内科医が多く(とくに看護師)、保健医療への公的支出が高い
- 女性に対する暴力への取り組み(ルワンダ、日本)

参考:防災会議の女性委員比率で避難所はこんなに違う

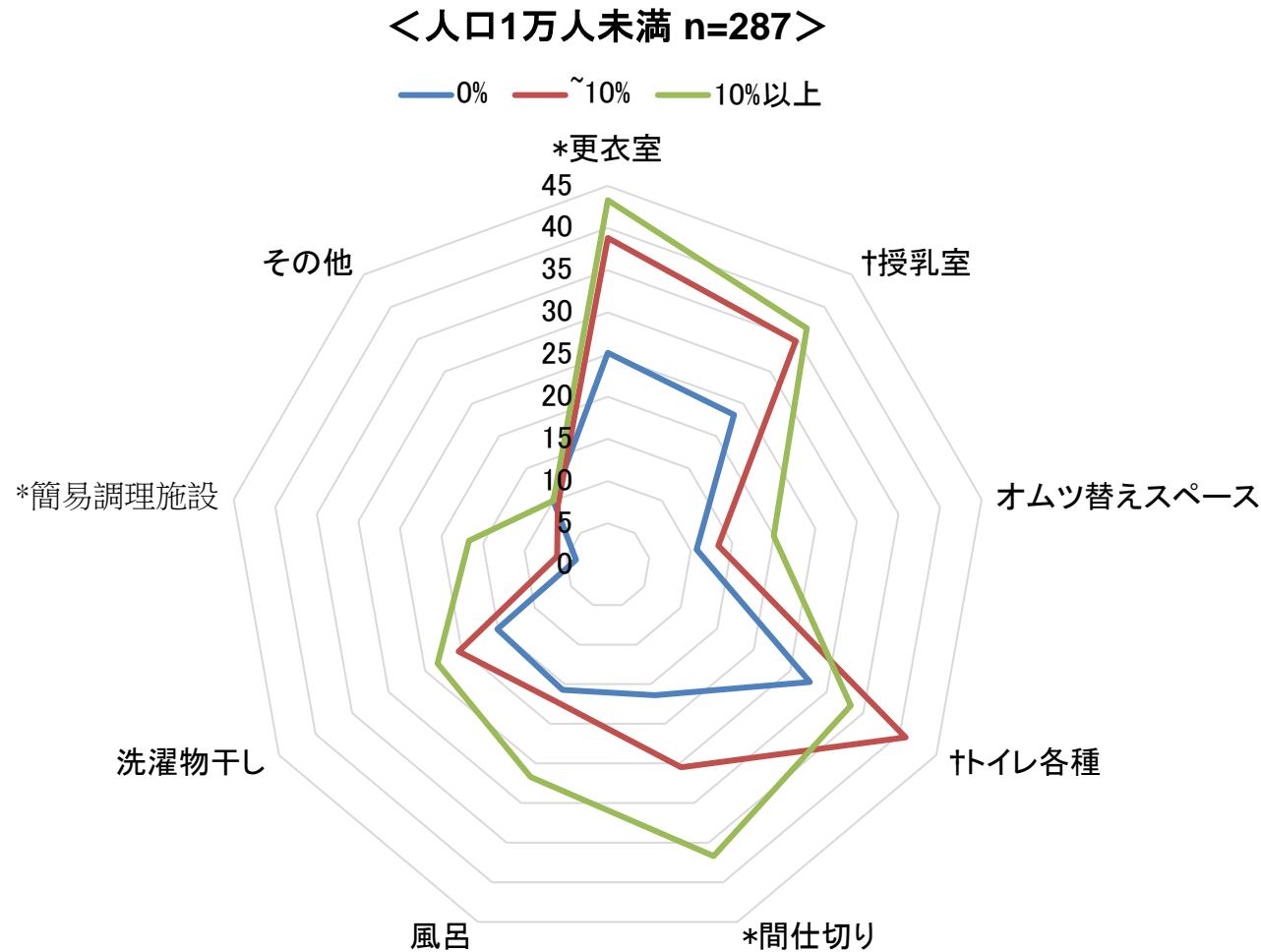
避難所運営指針等の記述、女性委員がゼロと10%台の場合

注:回答した1163市区町村の平均は、8%程度

出所:スライド6



参考:防災会議の女性委員比率で避難所はこんなに違う
人口1万人未満市町村、防災会議女性委員比率別、避難所の設備
注:人口1万人未満の市町村は311で、回答市区町村の26.6%
出所:スライド6



引用調査、文献

- 「2017年度女性・地域住民から見た防災・災害リスク削減策に関する調査」報告書ダウンロードは、
https://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/publishments/issrs/issrs/pdf/issrs_66_01.pdf
調査設計：2016-2018年度科研費基盤(A)「災害・危機へのレジリエンスをジェンダー化する」(研究代表者：大沢真理)アンケート調査チーム(大沢、堂本暁子+貝塚康宣、池田恵子)／調査協力：内閣府男女共同参画局長および全国知事会長／調査期間：2018年2月2日から23日／調査対象：都道府県(47)、市区町村(1806)／回答：47都道府県(100%)、1171市区町村(64.8%)
- Abrus, Ana, Ana Claudia Polato e Fava and Monica Yukie Kuwahara (2021) “Women Heads of State and Covid-19 Policy Responses”, *Feminist Economics*, 27(1-2) (A Special Issue on Feminist Economic Perspectives on the COVID-19 Pandemic), pp.380-400.
- Bonoli, Giuliano and Frank Reber (2010): The Political Economy of Childcare in OECD Countries: Explaining Cross-national Variation in Spending and Coverage Rates” *European Journal of Political Research*, 49 (1), 97-118.
- Ennser-Jedenastik, Laurenz (2017) “How Women’s Political Representation Affects Spending on Family Benefits”, *Journal of Social Policy*, 46 (3), 563-581.
- Kittlison, Miki Caul (2008) “Representing Women: The Adoption of Family Leave in Comparative Perspective”, *The Journal of Politics* 70 (2): 323–334.